

事後評価報告書（日本－インド研究交流）

**1. 研究課題名：「高出力ファイバ増幅器ならびにレーザのための希土類添加ダブルクラッド偏波保持フォトニック結晶ファイバの設計と作製」**

**2. 研究代表者名：**

2-1. 日本側研究代表者：

北海道大学大学院 情報科学研究科 准教授 齊藤 晋聖（2013年4月より教授）

2-2. インド側研究代表者：

中央ガラス・セラミック研究所（CGCRI）光ファイバー研究室 シニア研究者 Shyamal Bhadra

**3. 総合評価：（ S ）**

**4. 事後評価結果**

**(1) 研究成果の評価について**

計画段階から実績に基づく双方の得意分野と分担を明確に提示しており、双方の人的ネットワークが有機的に構築されて研究が進んだことが理解できる。特に、日本側がフォトニック結晶ファイバレーザの設計と評価を担当し、インド側が同ファイバの作製を担当することにより、新しい微細構造光ファイバを考案したことは高く評価できる。研究目標として掲げてあった項目は十分に達成できたとみられる。ただ、類似研究との比較があればもっと良かった。

**(2) 交流成果の評価について**

日本側がソフト的な側面を分担し、インド側がハード的な側面を分担しており、共同研究交流によっていい成果があがっている。セミナー、ワークショップなども多数開催して、お互いの交流を深めるだけでなく他の関係者とのディスカッションも行って情報収集に努めており、国際的な共同プロジェクト予算の獲得へ向け準備している積極的な姿勢は評価できる。

**(3) その他（研究体制、成果の発表、成果の展開等）**

日本では、光ファイバの形成についてメーカーや大学等で基礎研究として母材形成から線引きまで実施できる組織は少なく、このような共同研究は価値があると言える。また、本プロジェクトの研究員がインドの大学に赴任するなど、人材育成にも貢献した。